



KEEP LEFT

特定非営利活動法人 NPO KEEP LEFT 提案事業

「自転車地域活性化！ 提案書【その1】」

昨今の、ガソリン高騰、エコロジー志向、健康志向等にて自転車の利用者が増えています。

同時に、自転車が絡む交通事故も益々増えています。ルール・マナーを守らない自転車利用者も多く、不法駐輪に始まる数々の迷惑行為も多発しています。

各関係行政機関の方々も対策に苦慮されていると思いますが、このままで良いのでしょうか？

環境に優しく、健康維持に役立ち、手頃な移動手段である自転車の有用性が、生かされていません。

自転車は道路交通法の規定では、軽車両となっています。道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図り、道路の交通に起因する障害の防止を図る為に道路交通法が存在します。同法には、様々な規則や罰則が規定されています。自動車（自動二輪車も含む）や原動機付き自転車等に対しては、運転免許制度もあります。また、自動車損害賠償保障法によって、自賠責（自動車損害賠償責任保険）への加入も義務づけられています。一方で、自転車に関しては免許制度、自賠責のような加入が義務づけられている保険制度はありません。自動車、自動二輪、原付、自転車、人、各々の道路利用者が道路交通法に関する理解と、道路利用の安全に対する意識が異なっています。

道路交通法に関する理解や道路利用の安全に対する意識が異なる道路利用者が、同じ道路を利用する事が、事故や迷惑行為の根元であると考えます。

自転車利用者の多くは、歩行者の意識の延長で道路を利用します。自転車が道路交通法で軽車両である事も認識していません。スピードさえ出さなければ、何処を走ろうが、法令を無視しようが、安全（自分が事故に遭う事は無いであろうという思い込み）であろうと考えています。

事故に遭い、怪我をしたり、場合によっては大切な命を亡くしたり、事故を起こし、事故の当事者として責任を追究され、賠償命令等をうけた時に、初めて安全運転の重要性や、道路交通法の厳守を再認識するのが現状です。法令を無視していても（例えば、信号無視、夜間の無灯火、二人乗り、乗り入れ禁止地域への乗り入れ、飲酒運転等）、警邏の警察官から注意をうけるだけ、注意をうけるのはたまたま運が悪かっただけ、警邏の警察官が居なけれ

ばラッキー、と言う考えで自転車を利用しています。

これら認識の甘い自転車利用者に、自転車利用におけるルール・マナーを認識し、ルールを守り、マナー良く道路を利用してもらう為には「指導」や「強制」ではなく「教育」が必要と考えます。

「指導」では、解決しません。法律や条例で「強制」しても、反発します。

ルール・マナーを守らなければ、事故に遭い、ケガを負い、場合によっては命まで落とす、そして、ルール・マナーを守らないで、事故を起こし、責任をとる事となり多額の賠償義務を負う場合がある事などを 教えて、理解させ、実行出来るように導く すなわち「教育」が、必要ではないでしょうか。

特定非営利活動法人 NPO KEEP LEFT は、『自転車の安全、安心、快適な利用の為の教育システムと自転車利用をキーにした地域活性化』を提案します。

『自転車の安全、安心、快適な利用の為の教育システムと、自転車利用をキーにした地域活性化』

社会の全ての道路利用者に対し、道路利用におけるルール・マナーの教育には多くの時間、多くの費用、巨大な組織が必要です。まずは、小さな地域特に「教育」ですから、学校→通学路→自転車通学路 の周辺地域と限定しましょう。

■ 自転車安全教育

自転車通学を認めている中、高等学校の学生達を対象に「自転車の安全、安心、快適な利用」を教育します。[*自転車の正しい利用の仕方、道路交通法、事故例、被害者、加害者、罰則、社会的責任、賠償等](#) これら社会の中での法律や仕組み、他人への配慮等、社会人としての責任に関する事を生徒達に教える事も、社会へ巣立つ学生達にとっては大切な教育と思います。学校での教育の一科目です。

■ 教育する側のやるべき事

学校側は、生徒達が利用する道路状況の把握（生徒達の通学路を通学時間帯に自転車で、先生達が走って経験する事が最良の方法と思います）し、指定通学路の見直し、生徒達に適用している保険（傷害保険等）の見直し（自転車利用が含まれているかどうか）、道路整備の依頼、その他自転車の安全運転を阻害する要素を見つけ出し改善策を取る。[*先生達の、自転車に対する認識が一般の人達と同レベルであるのであれば、先生達にも勉強が必要です。](#) 道路交通

法における自転車（軽車両）の規定や罰則、自転車が絡む事故例、未成年者が事故を起こした場合の責任の所在等、是非、勉強して下さい。

■ 自転車通学路の周辺住民への協力依頼

子供達がルール・マナーを守り、学校側が各対策を施したとしても不十分です。道路に置かれたゴミ箱、お店の看板、近隣住民の自転車、通路を狭くする駐車自動車、放し飼いの犬等、自転車の安全な通行を妨げるものの撤去や排除に協力して頂くようお願いするべきです。*周辺の住民への協力依頼を行う事に依る、自転車の安全、安心、快適利用を啓蒙する事が狙いです。

■ 近隣の自転車屋さん

自転車には、自動車のような車検制度はありませんが、整備が必要です。整備不良の自転車では事故を起こしかねません。近隣の自転車屋さんの協力が得られれば、整備不良での事故は防げます。*自転車の整備を無料にしてもらう事は現実的ではありません。自転車の整備は有料と認識して下さい。自転車関連業界も自転車の安全基準に関し活動しています（BAA 等）。近隣の自転車屋さんと費用や対応に関する話し合いが必要です。自転車屋さんと言っても BAA 貼付の自転車を扱っていないなかったり、整備能力の無い（有資格者不在）所は除外です。

■ 自転車通学路を通過する自動車ドライバーにも協力依頼

自転車通学路を通過する自動車ドライバー達にも、この区間は生徒が自転車で往来する事を認識してもらい、より慎重な安全運転を心がけてもらえるように学校、地域、警察（交通安全協会も）が連帯して協力を呼びかける。*呼びかけの方法も色々あります。交差点での信号待ち時のビラ配布、看板、標識、警官が立つ、等。しかし、何れも、人力と費用がかかります。費用がかからない方策があります。それは、安全の為にスピードを落としたり、一時停止をしてくれたドライバーに対し、自転車利用者が会釈を返す事です。

■ 自転車利用、安全、安心、快適宣言！

上記で示した事が、学校、地域、行政の協力のもとに実行出来れば、地域（市町村）単位で「自転車利用、安全、安心、快適宣言」を行ないます。小さな地域であっても、これはその地域社会の力です。自分達が日々生活を営む村や町や市の栄誉であって、住民全てが誇りに思える事です。

如何でしょうか？

誰もが、安全に、安心して、快適に自転車の利用が出来る地域造り。

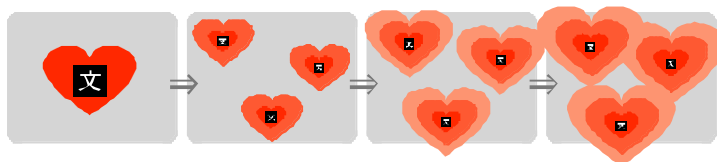
各行政機関の協力が必要ですが、多額な費用はかかりません。

自動車・自転車・人の道路利用の棲み分けや、自転車道の整備、交通信号機の増設等、インフラの整備が必要な事であれば、多額な費用が必要ですが、

人々の認識や意識を変える取り組みですので、多額な費用よりも関係者や当事者の理解と協力が重要です。

地域の人々が自転車利用に関する正しい認識（道路交通法、運転の仕方、マナー、自転車の危険性等）を持つ事が、この活動のポイントです。

学校と言う小さな単位ですが、生徒達に「安全、安心、快適な自転車利用」を教える事に依り、その周辺地域住民の皆さんへも「安全、安心、快適な自転車利用」の認識が波及し、その地域を通過するドライバーの方々にも好印象が芽生えます。学校→地域は小さな点ですが、この小さな点が増えれば、いずれは点が線、そして細い線が交差し太い線の交差となり、大きな面となるのではないのでしょうか。



中高等学校は何校ありますか？

学校の数 × 周辺地域の面積 = 結構な面積になる筈です。

人口が集中した所では、学校の数（生徒の数）も多い筈です。

都市部に適した提案かもしれません。

対象の単位を中高等学校としていますが、この対象を他のものに置き換えれば、いきなり地域が広がります。

学校→市町村 市町村を単位にした場合、それらを結ぶ道路がキーとなります。

市町村を結ぶ道路、しかも自動車の交通量が少ない自転車が走りやすい道路（安全、安心、快適な道路）。

自転車を利用する人々の中には、便利で手軽な移動の道具としてではなく、50Km や 100Km あるいはもっと長い距離を快適に走りたいと願っている人々もいます。近年、益々増えています。

これら自転車乗り（サイクリスト）達の視点で、地域と地域を結ぶ道路を見してみると、地域の再生や活性化が垣間見えます。

過去、町起こしや村起こしと言われる多額のお金を投下しての入れ物造りや客寄せパンダ的催し事、そして全国何処でも手に入れる事が出来る土産物企画等がほとんど成功していないのは、皆さんも周知の事実です。

お客さんの減少に悩む観光地のみなさん

過疎に悩む地域のみなさん

歳入の減少に悩む役所のみなさん

皆さんの協力があれば、急激ではないですが、緩やかな改善方法があります。しかも、多額のお金を投下せずに、自然破壊もせずに、地域のみなさんの為にもなる方策があります。

「 自 転 車 の ユ ー ト ピ ア 創 り で す 」



この様な表示がされているお店や施設が点在する

地域の事です。*上記のデザインは、NPO KEEP LEFT が一例として作成したものです。デザインの意匠、著作権、使用権は NPO KEEP LEFT に帰属します。

皆さんの地域には、大切な自然があります。澄んだ空気やきれいな水があります。そして、地域と地域を結ぶ道路があります。

この、既に存在する道路（インフラ）を利用して地域の活性化が可能です。

それには、皆さんの協力が必要です。

多額のお金の協力ではなく、認識の共有と理解、そしてほんの少しの工夫です。

● 自転車とは

自転車にも色々な種類があります。ママチャリと呼ばれるものからロードバイクと言われるものまで各種様々です。皆さんの地域の道路を走ろうとするサイクリスト達は、どの様な自転車に乗っていようが、相当なスピードで走ります。乗り手の脚力によっても違いはありますが、平地で時速 25Km~50Km、下り坂であれば時速 70Km 以上（プロのレースでは 100Km 以上も）で走る人もいます。まずは、皆さんの常識を遥かに超えるスピードで走るものをご理解下さい。

そして、サイクリスト達は皆さんの常識を遥かに超える距離を自転車で移動します。一日に 50Km、100Km、なかには 150Km もの距離を自転車で移動するサイクリストもいます。皆さんの常識を遥かに超える距離を移動する事も併せてご理解下さい。*我々 NPO KEEP LEFT は、これらスピードの出し過ぎを助長するつもりはありませんが、現行道路交通法では、自転車も道路標識等により最高速度が指定されている道路においては、その最高速度を超えてはならない（道路法 22 条）とあります。道路標識等がない道路においては、自動車（60Km/h）や原付（30Km/h）のような法定速度の規定はありません。安全な運転と言う表現です。但し、常識的に、人や対向車（自転車、自動車等）を認識した時には、事故を起こさない又事故を回避出来るスピードまで減速もしくは停止すべきものと理解しております。また、自転車利用者に対し安全な自転車の利用を啓蒙しています。

● 自転車に優しい道路（自転車で走りたくなる道路）

上記の、「自転車は皆さんの常識を遥かに超えるスピードで走るもの」を理解して頂いた上での話ですが、道路を走る自転車にとって危険な事や状況が沢山あります。

◆道路上に置かれた障害物 *特に歩行者・自転車道と自動車道がガードレール等で分けられた道の歩行者・自転車道に置かれた障害物（ゴミ箱、看板、自転車等々）

◆道路の極端な段差やズレたグレーチング（側溝のふた） *道路管理者の皆さんに改善を是非お願いしたい

◆道をふさぐ駐車自動車 *特に道幅の狭い場合、対向車線にまで回避しなければならない状況は非常に危険です

◆突然飛び出す歩行者や自転車 *走ってくる自転車は皆さんの想像以上のスピードで近づいて来ます

◆自転車すれすれに追い越しをする自動車、なかには幅寄せをする自動車 *これは、ドライバーの違法行為です。自動車と自転車では、自転車が交通弱者です、取り締り強化をお願いしたい

この様な、自転車にとって危険な事や状況が無い道路があれば、多くのサイクリストが遠くからでも自転車に乗りこやって来ます。

当然の事ですが、そのサイクリスト達はルール・マナーを守る人々でなければなりません。*我々NPO KEEP LEFT は、自転車利用者に対しルール・マナーの厳守を広く呼びかけています

地域の人々が自転車に関し正しい認識を持って頂ければ、ルール・マナーを守らないサイクリスト達を諭す事もあり得ます。



● ステーション整備

自動車にはガソリンスタンド（ガス・ステーション）があり、給油や休憩、軽い整備が可能です。道路があれば、必ず存在します。

ガソリンスタンドの業績も芳しくない今、ガソリンスタンドの新たな展開として、「自転車ステーション構想」は如何ですか？

サイクリストにも色々なパターンがあります。

自動車でやって来て、自転車を下ろしサイクリングを楽しむ人達に駐車スペースを提供すれば、如何でしょうか？ 料金は、地域の同業者さんと相談して決めてもよし、場合によっては、給油 30 リッター以上で半日駐車無料！ 少しは売り上げアップにつながるのではないのでしょうか？

サイクリストには、水分の補給が欠かせません。自販機の売り上げも……。自転車用空気入れも用意すれば……（フレンチバルブ、アメリカンバルブ、他）。

自転車用の整備工具も用意すれば・・・(自動車の専用工具と共通するものもあります)。

タイヤのチューブも用意すれば(種類が多いので、地元の自転車屋さんとのコラボも考えられます)・・・。

地元の数時間単位の天気予報掲示板も・・・(あれば、大変助かります)。ガソリンを売る仕事に、自転車利用者へのサービスを付加すれば新たな顧客獲得が可能ではないでしょうか。エコロジータ的発想をすると、化石燃料を売る時代は終わりました。これからのガソリンスタンドは、全ての道路利用者(自動車、自動二輪、原付、自転車、歩行者、車椅子、電動車椅子)のオアシスになるべきです！ *ハートマークの中に自転車が描かれた看板が掲げられていたら、サイクリストであれば立ち寄ります。但し、描く自転車の型は、ロードバイクです。たとえば右端下のような・・・

お願い：道路とスタンドの敷地の間の段差や側溝のフタの段差、それとグレーチングの格子の目の大きなもの。サイクリストにとっては危険な存在です。何時も、手前で停止して、自転車担いで通ります。我々のタイヤ幅は、21~23mmです(ロードバイク)。



● 食事場所

ロングツーリングをするサイクリストは、水とカロリーの補給を欠かせません。たくさんのモノを携帯し自転車に乗る事は好みません。カロリー補給に、エネジーバーを利用する人も多いです。自転車で走りながらカロリー補給する人もいます。しかし、食事はゆっくりと落ち着いてしたいものです。走りながら食事場所を捜す事もしばしば。しかし、適切な場所が見つかりません。

その理由は、盗難や転倒の心配が無い駐輪スペースを持った食事場所が少ないからです。サイクリストが乗っかる自転車は、サイクリストにとって大事な大切なお道具です。日々大切に扱っています。中には非常に高価なモノもあります。安心して置いておける駐輪スペースの整備が無理であれば、お店の中に自転車を置かしてもらえれば・・・。何れにせよ、サイクリストの志向を理解して頂き、サイクリストが喜ぶ客あしらいが出来るお店があればサイクリストで溢れるでしょう。



● トラブルへの対処

ツーリングで一番のトラブルと言えば、事故や転倒による怪我です。サイクリスト達は、ツーリング先(地域)の救急体制や受け入れ病院が気にかかります。救急車や病院が整備されていない地域を走る事は敬遠しま

す。 救急車や病院が整備されていないのであれば、是非、整備して下さい。 これは、その地域をツーリングで訪れるサイクリスト達の為だけではなく、その地域で生活する人々の為にも整備するべきです。

地方行政のレベルで解決出来ないのであれば、お国に働きかけて補助金や助成金を獲得すべきです。陳情の為の署名活動などがあるのであれば、我々サイクリストも協力します。



● 宿泊

自然を味わいロングツーリング、宿に帰ってゆっくり温泉につかり、地元のお酒と吟味された食事。

サイクリストであれば、誰もが夢見る世界です。

しかし、前記の「ステーション整備」「食事場所」等で書いたように、自転車の保管場所や整備道具が気になります。宿泊先の関係者が自転車やサイクリストに関する認識を持って頂き、サイクリストのわがままを理解してくれたら、夢が現実のものとなると思います。

既に、サイクリストをターゲットにしたホテル（宿泊施設）が存在します。そのホテルのホームページの抜粋です。

「自転車をこよなく愛するサイクリストの皆さん！！ お待たせしました、サイクリスト限定の平日宿泊プランが登場しました。 美味しい料理と疲れを癒す温泉、愛車は専用ロック付き車庫で保管、メンテナンス道具を完備し、翌日の携帯食にあたたかい真心がこもったおにぎり付きでお迎えします。」

自転車を輪行バッグに詰め込んで、泊まりに行きたい宿泊施設です。



● ツーリングマップ

延長距離で 50Km～100Km の道路マップに、サイクリストの志向を理解し、サイクリストのわがままを許してくれるガソリンスタンド、食事場所、救急病院、整備能力を有した自転車屋さん、宿泊施設を書き込みましょう。空いたスペースに各々の連絡先（電話番号）、最寄りの警察、病院等の連絡先（電話番号）を書き込めば、後はボランティアのサイクリストに走ってもらいましょう。

自転車にとっての道路の不備が無いかチェックし不都合な箇所を再度書き

込めば、立派なツーリングマップの完成です。
道路管理者にもマップ作りに参加してもらえれば、何よりです。

ツーリングマップが完成したら、自転車に優しい「ハートマーク&自転車」の看板を掲げた自転車に優しいお店や施設に設置し配布します。インターネットで公開するのも有効です。



● 自転車に優しい町（地域）です宣言！

地域の皆さんの賛同や協力が得られ、上記の事柄が実現出来たら、町（地域）のホームページで「自転車に優しい町（地域）です宣言」をしましょう。

「私達の地域は、自転車に優しい地域です！ 安全に、安心して、快適に自転車で走れる道路があります！！ どうぞ、走って下さい！！！」と世間にアピールします。



他府県はもとより、遠くはなれた都会からサイクリスト達が訪れる筈です。都会のサイクリスト達は、安全、安心、快適な道路に餓えています。そして、サイクリスト同士のつながりは太いです。口コミで広がります。自転車ブームですから、関連雑誌の数も多いです。取材に来るのは必定です。

同時に、地域の方々の、交通安全、事故の撲滅、自転車の安全、安心、快適利用の認識が益々浸透します。自転車の安全、安心、快適利用を軸に交通安全の相乗効果が生まれます。地域の皆さんの誇りとなります。

実業団や市民レベルのロードレース開催やその他自転車に関する各種イベントの誘致も可能です。可能と言うよりも、ロードレース開催やイベントの申し込みが入って来ます。地域の方々の自転車に対する認識や協力体制が、既に確立している訳ですから、主催者側が見逃しません。

如何ですか？

費用対効果を考えると、すぐにでも実行出来ると思われませんか？

この活動は、サイクリストの誘致が主たる目的ではありません。地域の皆さんが、安全に安心して快適に自転車の利用が出来るそして交通事故を無くす環境創りが主たる目的です。結果として、地元の人と訪れるサイクリストの「両者徳」、「一石二鳥」の地域活性化案です。

事故無く、ケガ無く、地元の人々も気持ち良く、道路を走るサイクリストも気持ち良く、通り過ぎたり、すれ違う、知らない同士が軽く会釈する。これが「**自転車のユートピア**」です。

市町村の単位であれば、行政、商工会、関連団体、青年団、サイクリストの団体等の連携も容易いと思います。その地域にはサイクリストも居る筈です。まずは、地元のサイクリストを囲んで座談会から始めましょう。

我々特定非営利活動法人 NPO KEEP LEFT も協力を惜しみません。

皆で、自転車のユートピア創りに、取り組んでみませんか。

ルール・マナーを守る自転車利用者が増え、社会の人々の自転車に対する認識が変わり、自転車の絡む交通事故が減り、不法駐輪などの迷惑行為がなくなれば、自転車の社会的地位が向上したと言えます。ヨーロッパの自転車先進国を真似るのではなく、日本の条件（狭い国土、都市部一極集中、交通渋滞、地域格差、過疎）に見合った高度な自転車利用が、上記の様な取組みを押し進める事に依り、可能になるかもしれません。

各行政機関の協力が必要ですが、多額な費用はかかりません。

自動車・自転車・人の道路利用の棲み分けや、自転車専用道の整備、交通信号機の増設等、新たなインフラの整備であれば、多額な費用が必要ですが、人々の認識や意識を変える取り組みですので、多額な費用よりも関係者の皆さんの理解と協力が重要です。

この提案は、認証NPO法人として特定非営利活動促進法に定められた規定に基づき、我々特定非営利活動法人NPO KEEP LEFT の事業の一環として取り組んでおります。

文責 佐原 純一郎 2008.9.



特定非営利活動法人 NPO KEEP LEFT

設立代表者・理事長 佐原 純一郎

<http://www.npokeepleft.com>

jimukyoku@npokeepleft.com